

2019 年度 第2回伊賀市図書館協議会議事録

開催日時：2020（令和2）年2月12日（水） 午前10時～12時

開催場所：伊賀市上野図書館 2階 視聴覚室

出席委員：柴田会長、石橋副会長、藤山委員、松田委員、長久委員、岩佐委員、岡委員、岡山委員、前山委員、山島委員

事務局：谷口教育長、中林事務局長、山森学校教育推進監、伊藤いがまち分館長、森嶋島ヶ原分館長、奥井阿山分館長、円界青山分館長、中原大山田分館長、中岡上野図書館長、戴主任、村田

1. 委員の委嘱
2. 挨拶：谷口教育長
3. 会長・副会長選出
4. 議事

会 長：（1）2019 年度図書館事業の進捗についてと（2）2020 年度の事業計画について意見いただきたい。資料1から3の説明をお願いする。

—事務局より資料1～3を説明—

委 員：観光で図書館のパンフレットを利用する感覚がない。図書館と観光客の関わりの展望はあるのか。

事務局：市では、忍者を PR するという目標があり、観光客も図書館で情報を得る。まちの賑わいを図書館が担うという他市の事例を参考に、観光戦略課から忍者を PR してほしいと要請があった。市民にも、市外の方にも忍者を PR する場と考えている。

委 員：基本的な図書館の性質は市民の知る権利で、プラスアルファで観光をしてほしい。

委 員：実際に観光客が、忍者のパンフレットを利用し調べるといった例があったのか。

事務局：伊賀上野 NINJA フェスタ時には観光客からパンフレットを求められた。あくまでも、市民のための図書館であることはブレずに対応したい。

会 長：観光客も網羅するが、あくまでも市民のための図書館が考え方の基本である。

委 員：観光の発想はない。

会 長：日曜日に観光客が図書館を活用することもできる。駅から図書館への案内板を立ててはどうか。図書館のなかだけでなく、館外への図書館 PR を考えてほしい。

事務局：商工会議所や観光戦略課作成の食べ歩きなどのパンフレットがまちなかにあり、そこには情報紙を置く図書館があるとポイント表示している。

委 員：忍者仕様で面白い仕掛けがあり、インスタ対応だが、図書館は広報が下手といわれる。図書館単体での広報は限界があり、インスタ対応は一般の人が盛り上げ、情報発信を担ってもらえばよい。インスタ対応で写真を撮れるのは非常に面白い取り組みだが、どのような反応か。

事務局：観光客だけでなく市内の親子連れからも、入口での写真撮影の要望がある。今まで撮影禁止だったが、ルールを説明し撮影している。

委員：忍者図書館を小学校や保育所の保護者に周知しているのか。

事務局：校園長会での紹介と保育所担当課にも通知し、市内の子どもたちに見てもらいたい。

委員：書面で保護者に伝えているか。

委員：全戸配布はしていないが、全校集会などで伝えるよう学校へ情報を届けている。

委員：子どもだけでは来られず親に情報が届くよう、学校からの通知に情報を載せてはどうか。

事務局：新聞記者に情報提供しているが、各保護者にも届くよう配慮したい。

会長：もっとPRしてほしい。

委員：子どもも連れてくる保護者も知っていれば盛り上がる。

委員：市広報で案内してはどうか。

委員：市広報は見ない現状がある。

事務局：広報だけでなく、新聞や情報紙「YOU」等も活用したい。

会長：来年度にむけ、今の意見を反映してもらいたい。

委員：伊賀上野ケーブルテレビはどうか。

事務局：撮影、放映している。

会長：資料1では学校に対する活動が深まっているようだが現状はどうか。

委員：学校では大好評で情報がリニューアルしている。図書が陳腐化している現状では、入替しても子どもたちの声をダイレクトに聞く機会は少ないが、配送のセット文庫は人気が高く、すぐ利用に繋がった。

委員：ボランティアとして小学校で読み聞かせしているが、絵本『かきやまぶし』が上野図書館に一冊しかなく団体用貸出本のため貸出不可である。

事務局：平成27年に約500冊購入し、33箱のセット文庫として配送している。

委員：学校への団体貸出専用か。

事務局：学校だけの貸出になる。

委員：検索で表示されるが、借りられない本があるのか。

委員：他のタイトルでもあり得るのか。

委員：セット文庫を単本で個人貸出できないのか。

会長：学校へ順番に貸出しをする。

会長：理想的として2冊あり1冊貸出用にできればよい。

委員：借りられなのなら検索できない状態にしておいたほうがよいのではないか。

事務局：検索は出来ない。

委員：ボランティアは借りられないのか。

事務局：セット文庫は、小学校児童へ届けることが趣旨であり、ご理解いただきたい。

委員：『かきやまぶし』は単独で借りられないのか。

事務局：セット文庫対象本である。

委員：県内の図書館にはないのか。

事務局：他館からの借受を調べる。

委員：なぜ貸出できないか管理者がわからないのか。

事務局：セット文庫は学校へ届け、児童に読んでもらうことを目的とした運用である。

会長：個人では借りられないシステムである。

委員：学校に読み聞かせに行く時だけ、借りることは出来ないのか。

事務局：学校へ貸出していない時、ボランティアさんへの貸出を検証したい。

会長：ほかに意見はあるか。

委員：読書感想文応募数が 327 点で、昨年より減少している。平成 26 年 386 点から 28 年は 450 点と増加しているが、昨年一昨年の減少原因を把握しているか。

事務局：審査基準や応募基準は変わっていない。少子化や本を読まない傾向にある。去年からの課題で国基準の応募枚数に変更した。原因は掴めてないが継続実施する。

会長：中学校と小学校の学校数に対する応募校数の割合はいくらか。

事務局：今回は算出していない。

委員：読書感想文を書かない小学生もいる。

委員：全員必須課題の学校と自由応募の学校がある。

会長：応募しない学校は、科学研究に力を入れている。

委員：数は関係なく、読書への関心が減っているわけではない。

事務局：幼少期から本に触れることは大切である。こども担当課では、親子の触れ合いの観点で子どもを膝にのせて本を読む読み聞かせは重要としている。大きくなっても本を読み、想いを言葉で表現する読書感想文や、小さいときから本に触れる体制を図書館が作る必要がある。

会長：読書感想文の書き方の研修会をやってはどうか。

委員：なぜ全国的に読書離れが起こっているのか。読み聞かせをしてほしいという子どもたちが出てこないといけない。読書に魅力を感じるような動機付けや自然と自分から読書をしたいと思えるように仕向けていく必要がある。大事な視点が抜けている。

会長：読み聞かせのやり方、動機付けが必要。

委員：読書に魅力がなければ、つまらないことになってしまう。

会長：経験者はいかがか。

委員：親の価値観もある。小さい時は必ず読み聞かせを聴き親子のふれ合いをした。仕事で忙しくて出来ない事情もある。ゲームを与えていれば静かにしているとなりがちで、親の家庭環境が影響し社会問題である

会長：本が並んでいるだけでも読む気になる。

委員：親が図書館に来た時についてきた子どもが一番利用が多い。親世代にもっと図書館を利用するよう仕向ける。子どもは自発的に図書館に行かない。伊賀市は図書館に莫大なお金を使うのだから、読書離れや来館者が減るのは納得できず、この利用者数は厳しい。

委員：親が本を読めば子どもも読む。ぜひ図書館をベースに大人対象読書会を開きたい。他の図書館でやっている。

会 長：図書館での読書会はどうか。

事務局：進めていきたい。

会 長：進めるということである。

委 員：負担にならないようにしたい。

会 長：読書会をするには人集めが大変だがどうか。

委 員：最初は少数でも無理なく長く続けたい。

会 長：ぜひ組込んでほしい。

委 員：都会では読書カフェが人気で、毎週のように集まっているとテレビで観た。

会 長：グループができる。

委 員：単独でも楽しめる。

委 員：本について誰かと語り合いたい。内容が難しくても読書会に提案したい。

委 員：新図書館計画で「図書館にカフェ設置検討」とあり、以前駐輪場で移動カフェをしたが無くなった。新図書館でないと出来ないのではなく、今できることをやる。時間延長もその一つである。定期的に休日などキッチンカーを呼び、疑似的なカフェと図書館の連携を検証してほしい。

事務局：市民にとって必要な事業はする。先の協議会でナイトライブラリー実施の意見が出たが、来年度、キッチンカーを復活し、読書カフェも検討したい。

会 長：読書会は場所の問題もある。

委 員：事務や企画を担い、図書館を借りて小人数で続けたい。前職の薬剤師ネットワークにより話す機会が欲しい。

会 長：薬の話の連続講演会、連続研究会のような形になる。

委 員：病院内勉強会と図書館では内容も変わる。

会 長：検討してほしい。

委 員：図書館主催でないと使用できないのか。

事務局：図書館はボランティアの読み聞かせ練習などの図書館事業で使用している。自主サークル活動は、生涯学習施設を利用している。

会 長：他に意見がなければ、（２）2020年度図書館事業計画 について説明願う。

—事務局より議事 資料4～6 を説明—

会 長：今年度の結果を反映して進めるとのことである。

委 員：読み聞かせが子育て支援センター事業と重なる。保護者間の連絡はライン等を活用し、他のイベントに流れてしまう。

事務局：各子育て支援センターはどこでも利用できるよう事業調節している。上野地区は図書館と子育て包括支援センター事業の曜日や時間の重複を調節している。

事務局：いがまちも調整している。人数は若干変動がある。

会 長：イベントの調整をどこかが取りまとめ、全体を俯瞰すればよい。

委 員：少し離れた拠点は静かに活動しながら、広報掲載や地域放送にて周知している。

会 長：重なれば、もっときてくれるはずだとなる。

委 員：いきたいところに行く状況である。

事務局：近年、0.1 歳児から保育所に通い平日子どもがいない。プログラムを見て、いろいろなイベントに参加しているので調節したい。

委 員：資料5の2020年度努力目標達成のための指標で、2019年度より2020年度の方が高い。例えば図書配送サービスが、非常に好評で多いのはわかるが他にも増えている。数値を出すにあたり増える根拠は何か。努力目標だから、少しの誤差もあるが、少なくなるところもあるのが自然ではないか。

事務局：9万人の市民に利用いただきたいと考えている。現在、図書登録カードの登録者数は、転居者や亡くなった方も含んでおり、実際は2割に満たない登録者数であることがわかった。一人1枚カードを持つことで、必然的に入館者数や貸出冊数等各数値が上昇するとの予測を根拠にした。

委 員：努力目標として「一家に1枚持ちましょう」という呼びかけをしてはどうか。

事務局：受け身でなく「もっと図書館を利用しよう」とPRが必要である。

委 員：県立図書館でCDを視聴したが、伊賀市はコスト的に難しいのか。

事務局：図書館でCDを聴きたいという問題もある。県内はCDを取り扱う図書館が少ない。

委 員：カードのポイント制や借りた冊数に応じた特典があれば楽しい。

事務局：市民の皆さんから図書館へ声をいただけるとうれしい。

委 員：「子ども図書カード」でポイントを貯めるのがうれしいと聞いたことがある。

事務局：読書通帳である。

委 員：やって楽しいなと思えるきっかけ作りが必要でよい提案だ。

委 員：子どもの時、読書感想文を書くとハンコを押してもらった。子どもは収集癖があり、読書感想文への動機づけとして形に残るほうがよいのではないか。

会 長：伊賀市らしいもの。伊賀市としては歴史資料を使おうとしている。

委 員：以前地図を借りようとしたら、損傷すれば補修に時間を要するからなのか貸出禁止だったが、規制を外してほしい。

委 員：県立図書館では、道路地図は貸出している。

委 員：保存の必要があるのか。理由は何か。

事務局：館内で閲覧いただいている。旅行冊子は貸出している。

委 員：旧版を貸出してはどうか。

会 長：レファレンスブックの取り扱いである。予算があれば一番いいが、レファレンスブックだから貸さないというのではなく、区分けをしていくことが必要である。

委 員：資料6の4。歴史貴重資料のデジタル事業は新規だが、上野図書館は多くの貴重資料がありデジタル化により利便性が高まる。以前県立図書館でも行ったが、費用と対象資料の取捨選択はどのようにしたのか。

事務局：忍者、芭蕉、歴史資料を対象に、全資料はできないが、文化財指定資料を中心に考えている。どう見せるかは各学芸員が考え抽出した。

会 長：現代とのつながりをどう見せるかが大切である。

委員：意外とアクセスが多く、同じ資料を何回も見ることができ、調査に役立つ。

会長：資料4から6をベースに 2020 年度の図書館利用を進めてほしい。その他に移る。

事務局：3つ提案がある。図書館要覧を作成するにあたっての変更点。いがまち図書室、青山図書室から移転の進捗について説明する。

―事務局より「図書館要覧（抜粋）」に添って変更点を説明―

主な変更点：P11 図書利用カード登録者数の男女別登録者数を削除。地区別のその他区分を月ヶ瀬、山添村、笠置町、南山城村、甲賀、その他に変更。

P15 ベストリーダーを削除。

P16-17 蔵書冊数・貸出冊数の推移、貸出利用者数の推移、予約数の推移に各館別の推移を追加。

図書利用カード登録者数を、10 年間利用のある登録者数に変更。

会長：変更点への意見はあるか。

委員：男女別表記を無くすことに驚いた。自分の選んだ性別で登録すればよい。男女別を無くすことは、図書館の運営上影響ないのか。男女で読みたい本は違う。市の方針か。

事務局：性別による本の傾向は分析していない。市の申請書類も男女別表記の必要性を問われており、記述しない方向としたい。年齢別、地域別の利用データは取りたい。

委員：図書館運営上、男女別が必要でないのならいいが、男女で読書の傾向が違うと思うが、この観点はどうか。

事務局：その方針でいきたい。

委員：細かく分析し、来館者数を上げ、読書の動機づけをする中で必要なデータだと思う。

事務局：市の申請用紙は男女別の記述見直しの中で無くしている。今から「その他」欄を入れ登録した方一人か二人だけになるのは、データとしにくい。

委員：そういう時代になっていることが驚きだ

会長：そのデータをどう使えるのか。

委員：実際まだ本屋では分かれていて、読書傾向の違いがある。

会長：男性が、料理本コーナーに行きにくく感じることは男女の差だ。

委員：申請用紙には男女の区別はないのか。

事務局：現在、男女別欄はある。あくまでも提案であるが、意見を尊重し、統計的な観点や必要性を検証したい。

会長：統計は一度変えたらなかなか変えられない。申請書類とのかかわりの中で変えられない部分があり検討が必要だ。

事務局：県立図書館はどうか。

委員：県立図書館は、男女記述の必要がない場合は基本的に消す方針で、申請書の性別欄を無くした。

委員：書きたい人は書き、書きたくない人は書かないと 3 択にすればよいのではないか。図書館運営において男女の観点は必要である。書き手が女性に向けて書いているものもあるはずだ。マイノリティーに向けて書いているわけではない。読書傾向は男女

で変わる。分析し、図書館運営の中では男女別に分ける必要がある。

事務局：他の図書館でも、年齢や職業による傾向、好みを掴み重視する等自治体の方針はあるが、男女別の統計を考慮して選書していない。

委員：料理と釣りの雑誌があれば、やはり釣りには男性が多いはずだ。来館者がほぼ男性の場合、女性の雑誌をいれても魅力のない図書館になってしまう。その時にその年代の男性の本を多く置くと、よく来る人はさらに来る。年代を重視すると、料理本か次の本かは図書館の裁量任せになる。

事務局：分類別に収集している。地域の人口比に応じ、年代に応じた好みの本やリクエスト本は重点的に選書するなど、公平な選書に配慮している。男女別の必要性を検証する。

委員：データ処理の観点から言えば、委員の意見が論理的で正論だが、公的立場からはそれを問わないという姿勢を見せざるを得ないのではないか。

委員：それでは数が出せない。本音でするべきだ。

委員：男女の別が当たり前の感覚から無くす方向にある。データとしては正しいが、仕方がない。

事務局：市として全庁的、明確的に男女の別は問わないという考えは打ち出せていないが、問う必要がないものについては、多くの申請書で男女の別を無くしている。教育現場では11～13人に1人がLGBTの思想の傾向が持っているといわれている。関係部署と協議し、図書館として検証する。

会長：2つ目に移る。

事務局：いがまち図書室の移転に関し、ふるさと会館いがへの当初の計画が見直された。昨年1月、伊賀市とDMG森精機との間で包括的連携に関する協定等を締結。新堂駅周辺地域整備計画が作られ、DMG森精機が大きく3つの事業の一つとして新堂駅複合商業施設の中にクリニック、金融機関、図書室、カフェなどを設置予定。令和2年度中の営業開始を通知している。図書室機能の協議も含め、伊賀市全体で迅速に対応していく。

事務局：事業が遅れており、令和3年度の秋ぐらいの営業になると聞いている。いがまち公民館に付随している図書館の機能を、DMG森精機が整備計画中の施設の中に持っただきたいと考えている。ただ、運営については任せるのか、市と分担するのか、市がリードしていくのかを含め協議中である。

会長：青山図書室はどうか。

―事務局より「青山地域複合施設整備事業」を説明―

会長：資料が半数になることが心配だ。

事務局：分館としては縮小になる。予算的にも3億程度、面積的にも全体で825㎡、図書室としては150～170㎡を要望するのが精一杯になる。

会長：減らす際の選書が重要になる。リサイクルや学校へ回す考え方はよいが、何を残すか。地域との関係も考えてほしい。

事務局：他館にある本は配送ができるが、青山図書室にしかない本は必ず残す計画でいる。

会長：質問はあるか。なければ旧庁舎の利活用について。

―事務局より 参考資料 を説明―

会 長：少し進みそうだ。交流型図書館。図書館が入るのが基本的な考えだが、意見によっては図書館を外すこともありうる。

事務局：昨年度、作成の基本計画のなかで、交流型図書館、三重大学国際忍者研究センターを入れることを計画。この計画を踏まえサウンディングを行いたいと市長が表明した。教育委員会としては交流型図書館がリノベーションした旧上野市庁舎に入ると考えている。

会 長：今年の夏に方向性が出てくる。協議会としては仕事が増える可能性がある。図書館の観点から検討する必要がある。何か質問はあるか。

委 員：ハード面の決着がつきそうだ。いがまちに運営体制について、今後しっかりと検討してほしい。委託の場合、建物が帰ってきた際に、大切な本が捨てられていた例もある。どこまで民間に協力してもらい運営していくのか。図書館サイドが監視できる体制を望む。

事務局：図書館が決まってから動き出すのでは遅い。構想としては交流型図書館。市としての意見が反映できる運営をしていきたい。

会 長：この協議会は伊賀市図書館協議会。全体のことを考えていく場であることを、共有しておいてほしい。

事務局：次回協議会については、庁舎の関係で動きがあれば、早々に開催する。来年度事業についても夏までには開催予定でいる。